





## 舞台批評

日本バレエ協会中部文部の主催公演「第44回中部バレエフェスティバル」(3月17日・ビレッジホール)が、趣向を凝らし

## 趣向凝らした9作品で観客魅了



'SWAN LAKE' (撮影・杉原一馬©和光写真)

日本バレエ協会中部文部の主催公演「第44回中部バレエフェスティバル」(3月17日・ビレッジホール)が、趣向を凝らし

あつた。白鳥たちが宙に舞う冒頭から目を奪い、エスプレリの利いた展開を予感させる。王子に不信を抱くオデット姫(幸田空)は黒髪をなびかせ、羽根を散らして激しく舞い、躍動する。悪魔ロッドバルト(長谷川元志)は悶え

出典者の大半はオーディションで選んだとか。エルギッシュに美

と技を表出し、生と死の

## 中部バレエフェス

改訂版で

た9作品の競演で意気込みを見せた。

メーン作品は第2部の「SWAN LAKE」。バレエの代名詞とも言えるチャイコフスキーアの「白鳥の湖」の第4幕の斬新な

苦しみ、湖に身を投げる。感情むき出しながらも、王子と姫の愛は…。呪縛が解け、白鳥や黒鳥の姿から元に戻った男女24人の若者は…。

大胆に冒険しながらも原典版の詩情を損なわぬ振り付けは川口節子。素足にバレエシユーズのダンサーたちは寝転び、両足を高く突き上げ、跳ねまくり、とクラシックバレエというよりはコンテンポラリー・ダンスの趣だ。

調和のとれた群舞から出

演者の個性が弾む動きや仕草に転じるなど、静と動のメリハリも上々。機知に富む構成で古典の名作に新たな生命力を注いだ。

日本バレエ協会中部文部の主催公演「第44回中部バレエフェスティバル」(3月17日・ビレッジ

ホール)が、趣向を凝らし

香奈を迎へ、ハチャトウリアン「剣の舞」、三木稔アル、「山田純平」(響明讃)

香奈を迎へ、ハチャトウ

リアン「剣の舞」、三木稔アル、「山田純平」(響明讃)

香奈を迎へ、ハチャトウ

リアン「剣の舞」、三木稔アル、「山田純平」(響明



**技術、音楽性、成長ぶりに感心**

上原宏の☆音楽☆聴き歩き

成長ぶりに感心したのが「井上莉那ピアノリサイタル」(3月23日・熱田文化小劇場)。1年半前の第35回名古屋演奏家育成塾で市文化振興事業団賞を受賞し、その記念演奏でのこと。

初めてのリサイタルで、ショパン「ピアノソナタ第2番」と、ショパン「クライスレリアン」を並べたことで、また。

井上莉那(ピアノ)  
ヴァイオリニスト春日井久美子、佐藤一紀、ヴィオラ奏者葉澤尚子、チェロ奏者樂恒ルは、ベートーヴェンの後期作品で充実感が増しことに息が合ってきた。

KOTOカルテット  
第4回名古屋公演(3月20日・HITOMIホール)は、ベートーヴェンの後期作品で充実感が増しことに息が合ってきた。

## 豊かな音色とアンサンブルで魅了

「弦楽四重奏曲第12番」は、莊厳で内面的なペー

トーヴェンらしさを表現した。続いて「第13番」は、自由な様式の6楽章から成る大作。莊重な序奏に始まり、民族風なりズムの第3楽章、ドイツ舞曲の第4楽章、そして抒情

的で美しい第5楽章と、現時点で特に問題はない。

総密で極上、ピアノを軸に一丸

く、まだまだ伸びそう

ホープだ。

4人は、さまざまなお

素に満ちた傑作を、豊か

な音色と絶妙なアンサン

ブルで魅了した。

来年は第14番、第15番

で大詰めを迎える。



「スケルツォ第2番」を聴いた予感が、後の大作で確かなものになった。

特に難しい「クライ

スル・リニア」は、多彩な曲調を見事に弾き分け

この年に作曲されたロ

ベルト・ショーマン「ヴァ

イオリンソナタ第3番」、

クララの「3つのロマン

ス」で、春日井は温かく美

しい音色で魅了した。

ブームス「ピアノノ

ターナー」は、多彩な

曲調を見事に弾き分け

この年に作曲されたロ

ベルト・ショーマン「ヴァ

イオリンソナタ第3番」、

クララの「3つのロマン

ス」で、春日井は温かく美

しい音色で魅了した。

クララの「3つのロマン